

(7) 北 陸



北陸地域では、景気は新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和されつつある中、持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響が残る中で、弱い動きとなっているものの、求人等の動きに底堅さが増している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

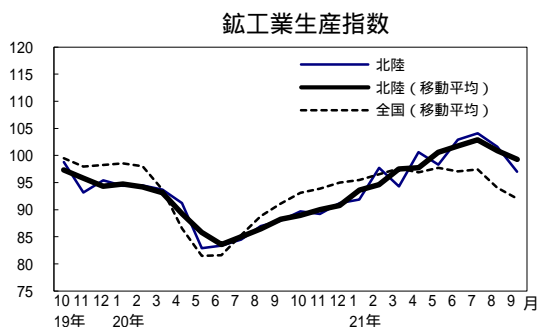
前回からの主要変更点

	前回(令和3年8月)	今回(令和3年12月)	
景況判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなかで、一部に弱さがみられるものの、持ち直している	新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和されつつある中、持ち直しの動きがみられる	
鉱工業生産	増加している	持ち直している	
個人消費	サービス支出を中心に弱い動きとなっている	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	
雇用情勢	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さが増している	感染症の影響が残る中で、弱い動きとなっているものの、求人等の動きに底堅さが増している	

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直している。

7 - 9月期の鉱工業生産は、電子部品・デバイスが減少したものの、生産用機械は半導体製造装置等が増加したこと等により、前期比0.3%増となった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4 - 6 月期	7 - 9 月期	7月	8月	9月
電子部品・デバイス	15.3	9.3	9.4	2.0	14.0	5.2
化学	14.0	0.9	2.4	5.0	3.7	12.3
生産用機械	11.8	16.5	23.6	8.7	11.3	9.9
金属製品	8.1	3.9	1.0	2.6	2.1	0.6
繊維	6.9	4.2	4.4	0.2	1.6	0.9
鉱工業	100.0	6.3	0.3	1.2	2.4	4.5

(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。北陸の最新月は速報値。

2. 全国及び北陸の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 7 - 9月期、9月は速報値。

2. 個人消費の動向

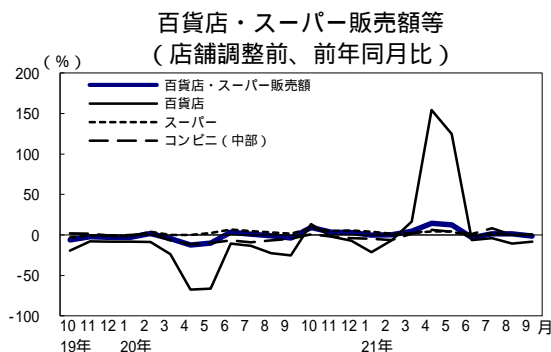
個人消費は一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7 - 9月期は前期比 1.1%減となった。月別にみると、7月は前月比 0.4%増、8月は同 3.1%減、9月は同 0.5%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、7 - 9月期は前年同期比 0.5%減となった。月別にみると、7月は前年同月比 1.2%増、8月は同 1.4%減、9月は同 1.3%減となった。



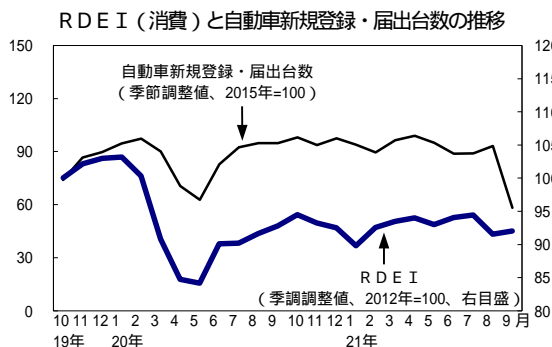
	2021年7-9月	2021年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	1.1	0.4	3.1	0.5
百貨店・スーパー(*2)	0.5	1.2	1.4	1.3
百貨店(*2)	7.3	3.8	10.5	8.4
スーパー(*2)	0.7	2.2	0.0	0.0
コンビニ(*2)	3.0	8.3	0.2	0.9
乗用車(*3)	16.8	4.9	0.5	38.5
(季節調整値)(*3)	15.0	0.0	4.8	37.5

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

コンビニは、経済産業省の中部(富山、石川、岐阜、愛知、三重)の値。

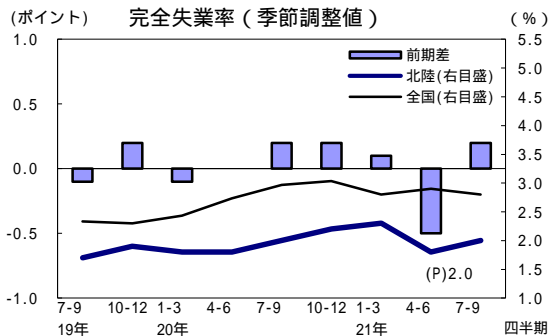
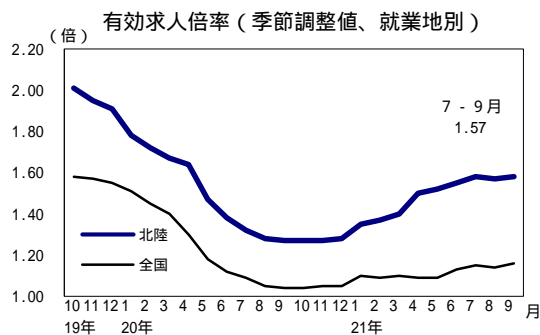
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響が残る中で、弱い動きとなっているものの、求人等の動きに底堅さが増している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を上回っている。



(備考) 1. 内閣府にて算出、季節調整。

2. 7 - 9月期の値は暫定値。

(13) 景気ウォッチャー調査 (令和3年10月調査) 景気判断理由の概要

7. 北陸

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・10月に入り新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着き、県民割引も再開され、週末を中心に予約が入っている(観光型旅館)
			・メーカーから新車の入荷状況が依然として悪いので、売上がなかなか戻ってこない。前年比で80%くらいの売上が続いている(乗用車販売店)
			・外食需要の活気が戻りつつあり、スーパーマーケットでは特に夕方の来客数が減少傾向である(スーパー)
	企業 動向 関連		・東南アジアでの新型コロナウイルスの感染拡大と半導体不足等による自動車生産停止の影響で、今一つ回復に力強さが欠ける状況が続いている(プラスチック製品製造業)
			・地元の荷動きは引き続き低迷気味であるが、都市部からの荷物は回復傾向にある(輸送業)
雇用 関連		・3か月前と比較して、新規求人数の変化がほとんどない(職業安定所)	
その他の特徴 コメント			・緊急事態宣言が解除され、取引先の売上回復を期待しているが、原油や資材価格が高止まりして原価が先行して上がっており、利益率は低下している(金融業)
			・3か月前と比較して、新規求人数の変化がほとんどない(職業安定所)
			・緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置等の解除で、一切動きがなかったレジャーや旅行業界から大きな動きが出てきたという声が上がりに始めている(新聞社[求人広告])
			：10月1日より金沢市のまん延防止等重点措置が解除され、徐々に県民が外出するようになってきている。併せて観光客や出張者も増えている(一般レストラン)
			：ウッドショックや新型コロナウイルス感染症などの外的要因で販売量が左右されることが比較的多く、確実に需要が伸びている感じはない(住関連専門店)
先行き	家計 動向 関連		・県民割引等の需要喚起策も開始され、また、感染状況が落ち着いてきている影響からか、予約も徐々に増加し始めている。2~3か月先に向けてやや良くなる傾向になるとみている(テーマパーク)
			・緊急事態宣言が解除されても、大きく景気が良くなっている印象は受けない。これから感染が拡大しないという保証もなく、しばらく景気は良くならない(家電量販店)
	企業 動向 関連		・全体としては回復基調にあるものの、サプライチェーンの分断や原材料価格高騰の影響を懸念する(繊維工業)
			・一部で新型コロナウイルス第6波への不安はあるものの、国内大手の取引先数社では既に回復基調が明らかことから、少なくともここ数か月前と比べれば良い方向へ向かっていくとみている(精密機械器具製造業)
	雇用 関連		・求人数について、状況が変わる要素や気配が見受けられない(学校[大学])
その他の特徴 コメント			：新型コロナウイルスの感染が抑制された状況が続き、クリスマスや年末年始といった動きのなかで上向くとみている。ホームパーティーや近場の旅行に関連した商品、総菜などのテイクアウト商品、旅行関連ウェアやクリスマス、プライダル等のギフト需要が上向きになる商材と見込んでいる(百貨店)
			：自粛解禁ムードのなかで年末年始の需要期を迎えることになれば、受注量、販売量共に更なる上積みが見込める。しかし、一方で原材料や燃料など複数のコストアップ要因に直面しており、収益性の面では悲観している(食料品製造業)

(D I) 現状・先行き判断D I (北陸) の推移 (季節調整値)

